

水痘ワクチンの説明書

生ワクチン
皮下注射

水痘とは	<p>水痘は「みずぼうそう」ともいわれ、水痘・帯状疱疹ウイルスの初感染によっておこる感染症です。空気感染、飛沫感染、接触感染により広がり、2週間程度の潜伏期間を経て発症します。主な症状は特徴的は発疹、発熱です。発疹は丘疹、水疱、膿疱、痂皮と移行しますが、いろいろな段階の発疹が混在するのが特徴です。</p> <p>一般的に軽症ですみますが、成人や免疫不全状態の人では重症となります。脳炎や肺炎、細菌の二次感染により膿痂疹、蜂窩織炎、敗血症などを合併することがあります。</p>
接種対象年齢 接種回数・間隔	<p>1歳以上3歳未満に、3か月以上の間隔をおいて2回。</p> <p>※標準的な接種期間 (1回目) 1歳以上1歳3か月未満に1回 (2回目) 1回目終了後、6か月から12か月の間隔をおいて1回。</p>
ワクチンの副反応	<p>○ 注射部位の症状(赤み、硬結、腫れ、痛みなど)、発熱(37.5℃以上)などがみられます。</p> <p>○ 極めてまれに、ショック、アナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病などが報告されています。</p> <p>予防接種を受けたあと、副反応がおこった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。その後、東大阪市保健所までご連絡ください。</p>
受けることが できない人	<p>○ 明らかに発熱している人(通常は37.5℃を超える場合)</p> <p>○ 重い急性疾患にかかっている人</p> <p>○ このワクチンの成分によってアナフィラキシー(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応)をおこしたことがある人</p> <p>○ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた人</p>
予防接種を受ける に際し、医師とよく 相談しなければならない人	<p>○ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある人</p> <p>○ 過去に予防接種を受けたとき、接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた人</p> <p>○ 過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある人</p> <p>○ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある人、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる人</p> <p>○ このワクチンに含まれる成分にアレルギーをおこすおそれのある人</p>
ワクチン接種後の 注意	<p>○ 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。</p> <p>○ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。</p> <p>○ 接種当日は過度な運動を控え、1週間は体調に注意しましょう。</p> <p>○ 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこすることはやめましょう。</p> <p>○ 接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。</p> <p>○ 注射生ワクチンを接種後、他の注射生ワクチンを接種する場合は、27日以上の間隔をあけてください。</p> <p>○ このワクチンと他のワクチンの同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。</p>